

令和5年度 事業所目標

令和5年2月14日作成

1	初期支援（はじめのかかわり）	担当となる予定の職員がインテークの場面から参加できるようにスケジュール調整を行う。（継続） 各担当職員がご利用者の個別性をより尊重した内容を盛り込むことで、よりご本人の生活に寄り添った支援を目指す。
2	「～したい」の実現 （自己実現の尊重）	担当職員が目標達成に向けて計画的に取り組むことができるよう、チームで協力して具体的なスケジュールを立てていく。 個別性の高い目標を立ててゆけるようになる事を目指す。
3	日常生活の支援	技術演習や研修を行う機会を持つ事で、要介護状態の重度化にも対応できるようになる。
4	地域での暮らしの支援	ご利用者の以前の暮らしを知ることで、現在の生活をより本来の暮らしに近づけるようになる事を目標としご利用者やご家族に聞き取りを行う。ご本人の生活歴、地域と関わりについて内容を記録、整理する。
5	多機能性ある柔軟な支援	事業所で支援を抱え込まず、ご家族の支援や地域の社会資源を意識して支援の輪を拡大させてゆく事ができるよう、働きかける。
6	連携・協働	ITの活用などによるコロナ禍における地域や他事業所の連携について模索し、ご利用者を含め地域における事業の孤立化を予防する。・利用者に変化があった場合や、連携して支援を行う際に担当職員や計画作成担当以外の職員でも即時に対応が行えるよう、ご利用者毎に、他の事業所や地域におけるキーパーソンについて連絡網を整理する。
7	運営	健全な経営に対する意識を高め、他事業所の取り組みからより効率の良い支援方法を取り入れる事や、物価高による経費の圧迫を軽減させる事により、安定した体制による支援を行えるようになる事を目指す。
8	質を向上するための取組み	研修テーマにより、開催時期や実施時間を調整させることで、研修の参加率を向上させると共に、これまで参加が難しかった職員が同様に機会を持てるようにしていく。
9	人権・プライバシー	ご利用者に消費者被害や、それに類する状況に置かれた場合の対応方法について学び、速やかに対応が行えるようにする。 ご利用者の個人情報について不適切な取り扱いとならないように、事業所内でのルールを策定し周知を強化するとともに、報告や相談の内容が周囲に聞こえる事が無い様に普段のケアの場面においても意識の向上に努める。

小規模多機能型居宅介護「サービス評価」 総括表

法人名	社会福祉法人 京都福祉サービス協会	代表者	理事長 浅野信之	法人・事業所の特徴	「くらしに笑顔と安心を」の理念のもとに、京都市に多種多様な介護事業所を持つ法人である。 事業所は桂坂学区の福祉ゾーンに位置し、洛西ふれあいの里保養研修センターが担ってきた地域コミュニティの拠点としての役割を踏まえ、高齢者の居場所づくりの推進や、地域住民同士の交流の場の提供など、地域で高齢者を支えるネットワークの構築を進めていく。また、地域との関係性を大切にしながら、利用される方がいつまでも住み慣れた地域で暮らし続けられるように支援している。
事業所名	小規模多機能型居宅介護事業所桂坂	所長	浦川良太郎		

項目	前回の改善計画	前回の改善計画に対する 取り組み・結果	意見	今回の改善計画
A. 事業所自己評価の確認	9項目の自己評価から、課題を抽出し具体的な目標設定を行った。 ※別紙参照	9つの取り組み結果、できている点、できていない点を参照願います。	・研修について、運営法人のスケールメリットを使った職員の質の向上は良い取り組みであると思います。 ・事業所や職員の皆様で自己研鑽され、チームワークや多職種典型を大切にされ、質の高いサービス提供に努められていると思います。	別紙のとおり、抽出した課題について定めた目標に取り組みます。 ※別紙参照
B. 事業所のしつらえ・環境	・活動の一つとして、希望する利用者と共に四季ごとの植物の育成を行います。 ・感染予防対策の観点も含め、毎日の清掃及び消毒をチェック表を付けて実施します。	・鳥獣による被害が起きないように、ベランダを利用した野菜(トマト、二十日大根)作り、玄関側駐車場花壇の整備、朝顔の育成等。 ・フロアにおける季節ごとの作品展示。 ・感染症対策について、行政による指導、方針の確認や、他事業所との情報交換を行う事で、柔軟に対応を変更しながら環境衛生に取り組んだことで、事業所内でのクラスター発生を予防する事が出来た。	・感染症対応について、大変ですが継続が必要であると思います。また、コロナにより色々な事に生活制限があるなか、四季を感じられるような取り組み(飾りつけや設え)が重要であると思います。	・感染症対策を継続しつつ、四季を感じられる設え、飾りつけを利用者と共に行います。
C. 事業所と地域のかかわり	・コロナの感染状況に応じて段階的に交流スペースの使用を再開していきます。 1) 新たな感染増加がひと月以上なく、引き続き安定していると判断した時に予約受付をする。 2) 当初は3階フロアでの鍵の受け渡しを行わず、接触を減らして実施する。 3) 収束状況により鍵の管理を元に戻す。 感染再拡大では直ちに中止する。	・桂坂オータムフェスタへの参加。ご利用者、職員による演奏、作品展示を行う事が出来た。個別ケアとしても高い目標の達成が出来たケースであった。 ・8月より地域交流スペースの利用再開。ただし感染対策上カラオケ等の使用に関しては制限を掛けており、コロナ禍以前の利用状況には至っていない。	・難しい対応ですが、感染症対策を行いつつ、コロナと共に、コロナがある中での地域との関わりを少しずつ考え取り組んでゆく必要があると思います。 ・利用者が地域のイベントの場で活躍できるよう、事業所をあげての取り組みは素晴らしいと思います。 ・いろいろなことがありますが、包括さん、浦川さん、竹田さん…と、いつもたすけていただいています。感謝です。	・感染状況に応じて交流スペースの貸し出しを拡大していきます。 ・令和4年度同様、オータムフェスタへの参加により地域との関りを継続します。
D. 地域に向いて本人の暮らしを支える取り組み	・地域包括支援センターのランチ機能として力を発揮できるように、小規模多機能の役割に関する勉強会を実施します。 ・当事業所の運営にとどまるのではなく、地域の介護力向上に向け、事業所間の連携や会議等において役割をもって参加します。 ・利用者の暮らしに応じて、地域の商店等と連携します。	本年度より体制を新たにした洛西いきいき調整会議(旧:事業所連絡会)への主体的な参加や、西京理療介護連携班による、地域の医療機関に対する小規模多機能の説明会の実施(R5年3月)により、取り組みを進めている。 個別地域ケア会議等を通じ、民生委員を中心とした地域の方との連携を図ることが出来た。	・洛西いきいき調整会議では中心的な役割を担われ、地域のネットワークの強化に寄与されていると感じています。 ・地域福祉向上に尽力いただきありがとうございます。次年度も宜しくお願い致します。 ・困難ケースの介入ありがとうございます。非常に心強く思っています。	・地域における相談窓口としての役割を職員一人ひとりが認識できるよう毎月毎に事例を取り上げ、検討を行うてゆきます。

<p>E. 運営推進会議を活かした 取組み</p>	<p>・感染状況が落ち着いた後も、対面会議と並行して ZOOM での参加もできるように（有料会員になる必要がある）仕組みづくりを検討し、利用者や家族の参加がしやすいようにします。</p>	<p>運営推進会議の対面会議実施。面会による細やかな情報交換により、地域にある困りごと、介入困難なケースについて相談、一部対応を行う事が出来た。</p>	<p>・分かり易い事業所方の情報提供、状況説明により、委員より意見がもらいやすい体制になっていると思います。 ・分からない事は会議の中で質問して自分の中で即解決していますので、気になる事はありません。</p>	<p>・運営推進会議にご家族やご利用者が参加しやすいように、案内を工夫します。</p>
<p>F. 事業所の防災・災害対策</p>	<p>・災害対策委員会を設置し、BCP 策定にとりかかります。</p>	<p>法人内でのBCP策定委員会の設立、その取り組みにより、令和 5 年度の運用開始が見込まれている。</p>	<p>・災害区域でもある為、重要な事であると思います。 ・非常に重要なことと思います。</p>	<p>・法人が作成した BCP の骨子をベースに桂坂版を作成し、災害対策委員を任命して訓練を実施します。 ・福祉ゾーン施設の災害対策について他施設と共により深めていきます。</p>